

1 NO.2548 牛の肝臓

2 [大竹良祐 (豊橋市)]

3 症例：牛 (ホルスタイン種), 雌, 63 ヲ月齡.

4 臨床的事項：一般畜として搬入され, 著変は認められなかった.

5 肉眼所見：肝臓表面に小豆大の結節が多数認められ, 結節周囲には点状出血がみら  
6 れた. 肝臓剖面で, 結節は周囲と境界明瞭な不整形の黄白色病巣で, 同様の結節は肝  
7 臓内部にも多数認められた. その他臓器及び枝肉に著変は認められなかった.

8 組織所見：肝臓の結節は, 辺縁を好中球や細胞退廃物を取り囲む凝固壊死巣で, そ  
9 の周囲には充出血が認められた. 残存する肝小葉の類洞は拡張し, 好中球やマクロフ  
10 ァージの浸潤が認められた. 小葉間結合組織は, リンパ球やマクロファージを主体と  
11 した炎症細胞の浸潤及び線維の増生により肥厚していた. 壊死巣の内部から辺縁にか  
12 けて, グラム染色でグラム陰性長桿菌が, ワーチン・スターリー染色で黒褐色に染ま  
13 る好銀性の長桿菌が多数確認された.

14 細菌検査：肝臓の結節から, 好気培養下で菌は分離されず, 嫌気培養下でグラム陰  
15 性偏性嫌気性長桿菌が分離され, 同菌は Api20A (ビオメリユー・ジャパン株) によ  
16 り *Fusobacterium necrophorum/nucleatum* と同定された. 分離菌株の DNA 抽出を行  
17 い, *F. necrophorum* の特異遺伝子をターゲットとしたプライマーを用いた PCR 法に  
18 より当該菌は *F. necrophorum* と同定された.

19 診断名：牛の *F. necrophorum* による壊死性肝炎

20 討議：組織学的に, 肝臓の凝固壊死巣において, 特殊染色により *F. necrophorum*

- 21 を疑う長桿菌が認められ，細菌検査により肝臓の結節から *F. necrophorum* が分離さ
- 22 れていることから，本症例は *F. necrophorum* による壊死性肝炎と診断された．